

第10回 盛岡市新市庁舎整備審議会

日時 令和6年5月22日（水）午後6時

場所 盛岡市総合福祉センター 講堂

次 第

1 開 会

2 報 告

第9回審議会の開催結果について

3 議 事

(1) 基本構想（案）の構成について

(2) 整備エリアの選定について

4 その他

5 閉 会

盛岡市新市庁舎整備審議会委員名簿

(敬称略)

	役職	委員名	役職等
1	会長	倉原宗孝	岩手県立大学総合政策学部教授
2	副会長	福留邦洋	岩手大学地域防災研究センター教授
3	委員	赤坂岳史	公募委員
4	〃	浅沼清一	岩手中央農業協同組合代表理事組合長
5	〃	宇佐美誠史	岩手県立大学総合政策学部准教授
6	〃	落合昭彦	公募委員
7	〃	小山田サナエ	のぞみ設計室代表 (一社)岩手県建築士会理事
8	〃	菊池透	盛岡商工会議所専務理事
9	〃	小枝指好夫	盛岡市町内会連合会会長
10	〃	駒井元	盛岡市玉山地域振興会議委員
11	〃	今野紀子	盛岡市身体障害者協議会副理事長
12	〃	高橋悟	岩手県ふるさと振興部科学・情報政策室 DX推進専門官
13	〃	中島清隆	岩手大学人文社会科学部准教授

【事務局】

	所属	職名	氏名
1	市長公室	企画調整課長	佐々木潤也
2	総務部	部長	渡邊猛
3	〃	次長	菅原宏文
4	〃	参事兼管財課長	鈴木丈司
5	〃	管財課主幹兼新市庁舎整備室長	遠藤征司
6	〃	管財課課長補佐兼新市庁舎整備室副主幹	早坂邦彦
7	〃	管財課新市庁舎整備室主任	小野寺寛基
8	〃	〃	佐藤匠
9	財政部	財政課長	竹原和浩
10	都市整備部	都市整備部長	滝村敏道
11	〃	都市計画課長	松田諭



【報告】第9回審議会の開催結果について

- (1) 開催日時 令和6年5月17日（金）10：00～12：10
- (2) 開催場所 盛岡市勤労福祉会館 401・402会議室
- (3) 出席委員 11名（欠席2名）
- (4) 会議の概要
 - ア 報告
第8回審議会の開催結果について
 - イ 議事
 - ・整備エリアの評価について
 - ・今後の進め方について
- (5) 主な意見
 - <整備エリアの評価について>
 - ア 整備エリア評価表（全体）
 - ・集計結果に記載している「集約評価」の「総括」の欄は、各委員のコメントや優位性をまとめた文章であることを記載したほうが良い。
 - ・将来性や可能性を踏まえた評価についても、評価結果のまとめに反映してほしい。
 - ・評価記号の重みづけは各委員に任されていることから、絶対的評価ではなく相対的評価である旨を記載してほしい。

- イ 評価区分：A まちづくりへの影響
「上位計画・都市計画」の項目に評価の重みづけをするべきとの意見があるが、各委員の◎～×の評価においてすでに重みづけされているため、評価項目ごとの重みづけは不要である。
 - ウ 評価区分：B 市民利便性／交通アクセス
自転車も重要な交通手段の一つであり、何らかの形で意見を入れてほしい。
 - エ 評価区分：C 災害リスク／防災拠点性
災害の際に、県庁舎等と近くて連携が取りやすいことを評価するか、リスク分散のために離れる方が良いか、両方の考え方がある。
 - オ 評価区分：D 敷地配置／動線
行政サービスの在り方に必要なスペースなど、不確定要素がある中で評価したことを「総括」の欄に記載した方がよい。
 - カ 評価区分：E その他
現時点の情報量に基づき評価したことを付記してほしい。
- <今後の進め方について>
意見なし



【議事(1)】基本構想(案)の構成について

基本構想(案)の構成は、第1回審議会で調査審議した「基本構想の構成(案)」をベースに次のとおりとする。

第1章 はじめに

- 1 本庁舎の建替えの必要性
- 2 基本構想策定の目的
- 3 基本構想策定の検討体制

第2章 本市及び現庁舎の現状

- 1 上位計画等の整理
- 2 現庁舎の現状と課題
 - (1) 各庁舎の状況
 - (2) 庁舎の配置
 - (3) 現庁舎整備の経緯
 - (4) 現庁舎の課題
 - (5) 今後想定される課題

第3章 基本理念及び基本方針

第4章 新市庁舎の規模

- 1 庁舎のあり方
- 2 想定規模

第5章 整備エリア

- 1 整備エリアの選定の経緯
- 2 整備エリアの選定

第6章 事業手法・財源

- 1 想定される事業手法
- 2 想定される整備方法
- 3 財源

第7章 今後のスケジュール

(第8章 資料編)

資料編は別冊とする

【議事(2)】整備エリアの選定について

(1) 前回資料の修正(別紙資料1及び2)

第9回審議会の意見を踏まえ、整備エリア評価集計表を修正した。

掲載箇所	修正前	修正後
上段「評価基準」	(記載なし)	判断基準の説明追記
中段「各委員における評価」	各委員のコメント(要旨)	各委員の主なコメント(一部要約) ※掲載量を増やし、極力意見そのものを掲載
下段「集約評価」	評価(集計結果)	「各委員の評価」集計結果 ※上段とは異なる基準で評価した旨を明示
	総括	「各委員の評価」集計結果及び「各委員のコメント」を踏まえた評価 ※上段から得られる評価のまとめである旨を明示



(2) 整備エリアの選定について

ア 整備エリアの評価

「まちづくりへの影響」や「市民利便性」などについて、各エリアの現在の状況をまとめた「整備エリア比較表」を用いて、各委員のそれぞれの専門的な知見に基づき評価したものを、優位性を比較するため数値化した上で集計した。

イ 整備エリアの選定

【集計項目】

- ・ 最も評価が高かったエリアにかかる委員数
- ・ 評価総点数
- ・ 最も評価が高かった評価項目の数

集計結果及びこれまでの調査審議を踏まえ、審議会としては、新市庁舎の整備を「**内丸エリア**」とする内容の答申として取りまとめることとする。

(3) 留意事項

【内丸エリアに対する意見】

- ・ 内丸プランとの整合を図っていく。
- ・ 駐車場対策（民間駐車場や愛宕町分庁舎の公用車駐車場の活用）
- ・ 洪水浸水想定エリアを避けた用地確保

【エリア共通の意見】

- ・ エリアの特性を基本計画に活かす。
- ・ DX等による今後の住民サービスの変化を踏まえた駐車場規模の検討
- ・ 庁舎整備、維持管理における省エネルギー化や再生エネルギーの活用
- ・ 地元産材の活用による、市内の産業活用や地域経済支援

【その他】今後の進め方について（参考）

前回の審議会で示した「今後の進め方について」を、審議会のスケジュールに絞って再掲する。

なお、答申（素案）作成に係る各種照会を6月に予定している。

開催日等		調査審議事項
第9回	5/17	・ 整備エリアの評価 ・ 今後の進め方
第10回	5/22	・ 基本構想（案）の構成 ・ 整備エリアの選定
次回の調査審議事項		
第11回	6月下旬	・ 答申（素案）
第12回	7月下旬	・ 答申（案）
—	8月上旬	・ 答申
第13回	11月下旬	・ 基本構想（案）報告

基本理念 「つながり 支えあい 市民とともに歩み続ける市庁舎」

基本方針 「行政サービス拠点」 「防災拠点」 「持続・変革拠点」 「交流・共創拠点」

※委員名をA～Mの英字で表す。

整備エリア評価表 - 委員別集計結果																																																					
No.	評価区分	評価項目	内丸エリア												盛岡駅西エリア												盛南エリア																										
			A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M												
1	A	まちづくりへの影響	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	○	○	○	×	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	△	×	△	△	○	△	◎	△	△	×	○									
2	A	まちづくりへの影響	○	◎	○	◎	○	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
3	A	まちづくりへの影響	◎	◎	◎	○	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	○	△	△	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
4	A	まちづくりへの影響	○	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	△	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
5	B	市民利便性/交通アクセス	○	○	◎	◎	△	◎	○	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
6	B	市民利便性/交通アクセス	○	○	○	○	◎	○	◎	○	◎	△	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
7	C	災害リスク/防災拠点性	◎	△	○	◎	○	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	○	×	○	△	△	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
8	C	災害リスク/防災拠点性	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	×	○	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
9	C	災害リスク/防災拠点性	○	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	×	○	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
10	D	敷地配置/動線	△	○	○	○	○	◎	△	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	○	◎	◎	◎	◎	△	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
11	D	敷地配置/動線	○	○	○	○	○	×	○	△	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
12	D	敷地配置/動線	△	△	○	◎	○	◎	△	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
13	D	敷地配置/動線	○	○	○	○	◎	△	○	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
14	E	事業への影響	○	○	◎	○	○	◎	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
15	E	事業への影響	△	○	◎	○	○	△	○	△	○	△	○	×	△	△	○	△	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
合計 (◎…3、○…2、△…1、×…0)			30	33	37	38	31	40	21	40	28	38	32	37	26	36	31	35	38	28	29	20	22	39	28	37	24	29	32	28	27	28	24	23	33	18	25	24	30	18	23												

※内丸…内丸エリア、駅西…盛岡駅西エリア、盛南…盛南エリア

評価記号をもとにした定量的エリア別評価														参考			
エリア名	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計			
内丸エリア	30/45	33/45	37/45	38/45	31/45	40/45	21/45	40/45	28/45	38/45	32/45	37/45	26/45	431/585			
盛岡駅西エリア	36/45	31/45	35/45	38/45	28/45	29/45	20/45	22/45	39/45	28/45	37/45	24/45	29/45	396/585			
盛南エリア	32/45	28/45	27/45	28/45	24/45	23/45	33/45	18/45	25/45	24/45	30/45	18/45	23/45	333/585			
最も優位性を高く評価したエリア	駅西	内丸	内丸	内丸、駅西同位	内丸	内丸	盛南	内丸	駅西	内丸	駅西	内丸	駅西	内丸			
最も評価が高かったエリアにかかる委員数	内丸エリア			7人	盛岡駅西エリア			4人	盛南エリア			1人	内丸エリア、盛岡駅西エリア同位		1人	計	13人

基本理念 「つながり 支えあい 市民とともに歩み続ける市庁舎」

基本方針 「行政サービス拠点」 「防災拠点」 「持続・変革拠点」 「交流・共創拠点」

No.	評価区分	No.	評価項目	内丸エリア			盛岡駅西エリア			盛南エリア			参考	
				合計	優位性	評価	合計	優位性	評価	合計	優位性	評価	傾向	最も優位性の高いエリア
1	A	まちづくりへの影響	36/39	92.3%	◎	28/39	71.8%	○	17/39	43.6%	△	■ ■ ■	内丸エリア	
2	A	まちづくりへの影響	33/39	84.6%	◎	29/39	74.4%	○	23/39	59.0%	○	■ ■ ■	内丸エリア	
3	A	まちづくりへの影響	35/39	89.7%	◎	26/39	66.7%	○	18/39	46.2%	△	■ ■ ■	内丸エリア	
4	A	まちづくりへの影響	33/39	84.6%	◎	26/39	66.7%	○	17/39	43.6%	△	■ ■ ■	内丸エリア	
5	B	市民利便性/交通アクセス	31/39	79.5%	◎	33/39	84.6%	◎	15/39	38.5%	△	■ ■ ■	盛岡駅西エリア	
6	B	市民利便性/交通アクセス	27/39	69.2%	○	26/39	66.7%	○	26/39	66.7%	○	■ ■ ■	内丸エリア	
7	C	災害リスク/防災拠点性	30/39	76.9%	◎	19/39	48.7%	△	32/39	82.1%	◎	■ ■ ■	盛南エリア	
8	C	災害リスク/防災拠点性	28/39	71.8%	○	26/39	66.7%	○	29/39	74.4%	○	■ ■ ■	盛南エリア	
9	C	災害リスク/防災拠点性	34/39	87.2%	◎	24/39	61.5%	○	27/39	69.2%	○	■ ■ ■	内丸エリア	
10	D	敷地配置/動線	24/39	61.5%	○	31/39	79.5%	◎	18/39	46.2%	△	■ ■ ■	盛岡駅西エリア	
11	D	敷地配置/動線	22/39	56.4%	○	29/39	74.4%	○	22/39	56.4%	○	■ ■ ■	盛岡駅西エリア	
12	D	敷地配置/動線	26/39	66.7%	○	28/39	71.8%	○	22/39	56.4%	○	■ ■ ■	盛岡駅西エリア	
13	D	敷地配置/動線	26/39	66.7%	○	23/39	59.0%	○	21/39	53.8%	○	■ ■ ■	内丸エリア	
14	E	事業への影響	25/39	64.1%	○	26/39	66.7%	○	23/39	59.0%	○	■ ■ ■	盛岡駅西エリア	
15	E	事業への影響	21/39	53.8%	○	22/39	56.4%	○	23/39	59.0%	○	■ ■ ■	盛南エリア	
合計				431/585	73.7%	○	396/585	67.7%	○	333/585	56.9%	○	■ ■ ■	内丸エリア

集約評価

最も評価が高かった評価項目の数	内丸エリア	7項目	盛岡駅西エリア	5項目	盛南エリア	3項目	合計	15項目
-----------------	-------	-----	---------	-----	-------	-----	----	------

カラースケール凡例: 100% 75% 50% 25% 0%

内丸エリア						盛岡駅西エリア						盛南エリア					
<p>431/585 優位性 73.7%</p>						<p>396/585 優位性 67.7%</p>						<p>333/585 優位性 56.9%</p>					
【参考】各委員の評価						【参考】各委員の評価						【参考】各委員の評価					
◎	割合	○	割合	◎+○	割合	◎	割合	○	割合	◎+○	割合	◎	割合	○	割合	◎+○	割合
73個	37.4%	92個	47.2%	165個	84.6%	51個	26.2%	103個	52.8%	154個	79.0%	26個	13.3%	95個	48.7%	121個	62.1%
△	割合	×	割合	△+×	割合	△	割合	×	割合	△+×	割合	△	割合	×	割合	△+×	割合
28個	14.4%	2個	1.0%	30個	15.4%	37個	19.0%	4個	2.1%	41個	21.0%	65個	33.3%	9個	4.6%	74個	37.9%

基本理念 「つながり 支えあい 市民とともに歩み続ける市庁舎」

基本方針 「行政サービス拠点」「防災拠点」「持続・変革拠点」「交流・共創拠点」

評価区分	A まちづくりへの影響	評価項目	上位計画・都市計画	カラースケール凡例:	100%	75%	50%	25%	0%
評価視点	上位計画や公共施設のあり方を整理し、施設整備による「将来のまちづくりの方向性」と合致しているかを比較・評価。								
評価基準	◎…合致する ○…おおむね合致する △…一部の項目が合致する ×…合致しない 評価は3つのエリアで必ず差をつける必要はなく、評価記号の重みは各委員の専門的知見等に基づく判断による。								

各委員における評価	内丸エリア					盛岡駅西エリア					盛南エリア				
	各委員の評価														
	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計
	10人	3人	0人	0人	13人	4人	8人	0人	1人	13人	1人	4人	6人	2人	13人
	各委員の主なコメント(一部要約)														
◎	<ul style="list-style-type: none"> ・上位計画、立地適正化計画に合致している。 ・将来のまちづくりの方向性と合致している。 ・もともと開発計画の検討、研究が進んでいるエリアであり、既に一定のビジョンがある。 ・都市機能誘導地域であり、行政機能を誘導施設としている。 ・上位計画のまちづくり基本理念への合致が最も高いと考える。 また、本格的な人口減少を見据え、今後も持続可能でコンパクトな都市構造の形成を目指す方針にも合致している。 ・都市計画マスタープランで掲げる"都市の趣きを大切にしたい"という点では優位である。 ・現在も今後も中心市街地に行政機能があるべきと認識でき、内丸エリアを外すべき理由が見当たらない。 ・「一団地の官公庁施設」は、時代のニーズに合致していないのでこの機会に見直すべき。 ・エリアのどこに立地するかによって再比較、再検証が必要。 					<ul style="list-style-type: none"> ・上位計画、立地適正化計画に合致している。 ・高度利用を想定したエリアであり、現状、市有地の平場としての利用は非効率的。構内駐車場の整備や、中層／高層化を想定した場合、地区計画や他施設との調和が図られる。 ・都市計画マスタープラン、立地適正化計画、いずれにおいても拠点と位置付けられるが、都市計画マスタープランで掲げる"都市の趣きを大切にしたい"という点では内丸エリアよりも劣るきらいがある。 ・中心市街地に位置しており、検討に値するエリアである。 ○ 適地であるが、「立地適正化計画」を見直す必要がある。 ・都市機能誘導地域であり、行政機能を誘導施設としている。 ・上位計画との適合は比較的高く、市の玄関口の魅力向上を図りつつのまちづくりが期待できる。 ・おおむね合致するが、全ての市民が生活利便施設にアクセスしやすいように一部見直しが必要。 					<ul style="list-style-type: none"> ◎ 合致している。 ○ 「盛岡南新都市地区」が始まり、市役所建設予定地を確保していた。新しいまちづくりのためにもこの地に建設すべき。 ・さらなる発展が期待できる地域であり、将来的にはより上位計画と合致する可能性を秘めたエリアである。 △ 都市計画マスタープランで掲げる「新たな活力を生み出す新都市づくり」としての期待があるが、立地適正化計画では行政機能を誘導施設としていない。 ・商業地域に位置するものの、一部住居地域にかかることや、他官公庁との距離があり、統一感ある都市計画にならない。 ・まちづくり計画の見直し、現在の市役所周辺環境の衰退への配慮など影響が大きいと考える。 ・盛南地区中心部のみ合致するのではないかと。 × 中心市街地ではないことが大きい。 ・「盛岡南新都市地区」は、複合的な都市づくりを構想して整備しており、新庁舎整備としては不適。 				
○	コメントなし					×					・新庁舎の位置に適しているとは思えない。				

集約評価	「各委員の評価」集計結果			
	◎を3、○を2、△を1、×を0で数値化し、最大値に対する割合（以下「優位性」という。）が75%以上を◎、50%以上を○、25%以上を△、25%未満を×と表現する。			
	◎	○	△	×
	36/39	28/39	17/39	
	優位性 92.3%	優位性 71.8%	優位性 43.6%	
	「各委員の評価」集計結果及び「各委員のコメント」を踏まえた評価			
	各計画との整合性を基準に評価がなされており、内丸エリアが最も各計画との適合性が高いとの評価であった。盛岡駅西エリアは各計画との適合性は高いものの、内丸エリアに比べると適合性が低いとの評価であり、盛南エリアは将来的な発展が期待できる一方、各計画との適合性が低いとの評価であった。			

基本理念 「つながり 支えあい 市民とともに歩み続ける市庁舎」

基本方針 「行政サービス拠点」 「防災拠点」 「持続・変革拠点」 「交流・共創拠点」

評価区分	A まちづくりへの影響	評価項目	周辺環境への影響	カラースケール凡例:	100%	75%	50%	25%	0%
評価視点	施設整備による周辺への影響や課題について整理し、「まちのあり方」について比較・評価。								
評価基準	◎…大いに期待できる ○…期待できる △…あまり期待できない ×…期待できない 評価は3つのエリアで必ず差をつける必要はなく、評価記号の重みは各委員の専門的知見等に基づく判断による。								

各委員における評価	内丸エリア					盛岡駅西エリア					盛南エリア				
	各委員の評価														
	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計
	8人	4人	1人	0人	13人	6人	4人	3人	0人	13人	2人	6人	5人	0人	13人
	各委員の主なコメント(一部要約)														
◎	<ul style="list-style-type: none"> 行政、経済の中心を担う機能が揃いまとまりがある。職員、市民ともに利便性がある。 「盛岡らしさ」を実感できるエリアであり、周辺環境に調和し、バランスのとれた景観が求められている。 盛岡らしいシンボル性、歴史的な官公庁施設の都市景観等まちづくりに合致している。 歴史、さんさ踊りなど、盛岡の一番核、シンボルとなるエリアに相応しい。 デザインを十分に考慮した市庁舎ができるとすれば、内丸プラン等と連動したまちづくりへ寄与することが期待される。 					<ul style="list-style-type: none"> 盛岡駅前のシンボリックな存在としてプラスの効果に期待。 周辺環境への効果は想像しやすく期待は大きい。ただし将来の社会、地域状況がどのようになるか若干の不安はある。 駅との接続や新しい建築物としての調和も採れやすく、新しい盛岡の象徴として市内外から強く印象付けられる。 駅西口の駐車場の立体的活用を図れる。広い共用スペースなど、様々な可能性がある。 					<ul style="list-style-type: none"> 商業施設や住宅地の中、新たなシンボルとなる可能性あり。 大型商業施設や高規格道路もあり、アクセスの良さや新しい建築物としての調和も見込めるが、交通弱者への配慮が必要。 整備するとなった場合には、地区全体への影響は必至。エリアの都市計画を大幅に見直し「新たなまちづくり」とすべき。 周辺住民からすると、商業関係に加えて行政サービスの充実を実感できる。 周辺環境への影響は大きい。その変化にはプラス要素への期待が大きい、マイナス効果となる要素、分野もあり得る。 				
○	<ul style="list-style-type: none"> 計画との連動、歴史の継続性、コンパクトなまちづくりの視点に合致しており、期待できる。 庁舎が転出することのマイナス効果がより想像しやすい。検討中の内丸プランなどとの整合性、相乗効果が求められる。 全般に周囲の景観との調和が特に求められる。 					<ul style="list-style-type: none"> 盛岡駅を中心に賑わいの創出、交通の結節点として交流人口増が期待される。中心市街地へのアプローチにやや難有。 ウォークアブル空間、広場といった賑わいに繋がる空間が弱い。より賑わいがうまれる空間にできると評価は上がる。 立地は魅力的。ただし、岩手山がみえる景観の配慮は大切。 					<ul style="list-style-type: none"> 盛南開発は人口が右肩上がりの時に計画されたものであり、今後の人口減少を考えると、市の中心機能をまとめたコンパクトシティの考え方を再確認すべき。 まちづくり計画の見直し、現在の市役所周辺環境の衰退への配慮など影響が大きい。 道路が中心となる新たな街のシンボル創出をして良いのか。 移動が不便すぎてあまり期待できない。 				
△	<ul style="list-style-type: none"> 県庁がいつまでも現在地にあるとは限らない。 					<ul style="list-style-type: none"> 既にオフィスビルや複合ビルがあり、賑わいがある。市庁舎立地による効果は小さい。反対に平場、緑地の少ない高層建物が多いエリアとなる。 盛岡らしいシンボル性に欠ける。 									

集約評価	「各委員の評価」集計結果														
	◎を3、○を2、△を1、×を0で数値化し、最大値に対する割合（以下「優位性」という。）が75%以上を◎、50%以上を○、25%以上を△、25%未満を×と表現する。														
	◎	○	△	×	優位性	◎	○	△	×	優位性	◎	○	△	×	優位性
	33/39				84.6%	29/39				74.4%	23/39				59.0%
	「各委員の評価」集計結果及び「各委員のコメント」を踏まえた評価														
	周辺環境との調和や与える影響を基準に評価がなされており、これまでの歴史や都市景観、各種計画との連携から内丸エリアが最も適合性が高いとの評価であった。盛岡駅西エリアは、アクセス性の高さや駅を中心とした賑わいに期待できるとの評価であり、盛南エリアは新たなシンボルとしての期待がある一方、時代の変化に伴うまちづくりへの影響を懸念する評価であった。														

基本理念 「つながり 支えあい 市民とともに歩み続ける市庁舎」

基本方針 「行政サービス拠点」「防災拠点」「持続・変革拠点」「交流・共創拠点」

評価区分	A まちづくりへの影響	評価項目	官公庁・周辺施設との連携	カラースケール凡例:	100%	75%	50%	25%	0%
評価視点	施設整備による周辺施設との連携について整理し、「連携効果」を比較・評価。								
評価基準	◎…大いに期待できる ○…期待できる △…あまり期待できない ×…期待できない 評価は3つのエリアで必ず差をつける必要はなく、評価記号の重みは各委員の専門的知見等に基づく判断による。								

各委員における評価	内丸エリア					盛岡駅西エリア					盛南エリア				
	各委員の評価														
	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計
	10人	2人	1人	0人	13人	3人	7人	3人	0人	13人	1人	3人	9人	0人	13人
	各委員の主なコメント(一部要約)														
◎	<ul style="list-style-type: none"> 市役所がこの内丸にあること自体が歴史であり、盛岡城跡公園や紺屋町などの昔ながらの街並みを維持、利活用できる。 他官公庁との連携の便利さは言うまでもないが、エリア外に移転した官公庁がある点も考慮されるべきである。 地理的にも周辺施設との連携は最も優位性があるが、今後のDX化なども考えると、そのように判断すべきか難しい。 官公庁施設、金融、商業施設が集中近接し、行政経済の中心となっている。行政機関との連携が期待できる。中心市街地全体への賑わい波及効果が期待される。 県庁や県警等と近接している点は集積の効果が期待できる。ただし、エリア全体が被災しないための配慮は必要。 3エリアともそれぞれ期待できる。 					<ul style="list-style-type: none"> 現市庁舎以上に十分な連携が可能。県盛岡地区合同庁舎との合築が可能ならなおよい。 3エリアともそれぞれ期待できる。 					<ul style="list-style-type: none"> ◎ 3エリアともそれぞれ期待できる。 				
○	<ul style="list-style-type: none"> 県庁や周辺企業の建物は建替時期を迎えているものがあり、将来のまちづくりの観点においても連携できる可能性がある。 					<ul style="list-style-type: none"> 市庁舎の想定規模が縮小する中、マリオスやアイーナの会議室が至近であることは相対的に価値が高い。また、災害時混雑が予想される河川橋梁部を介さず、消防本部と接続できる。 周辺施設との連携は期待されるが、今後のDX化なども考えると、そのように判断すべきか難しい。 再開発によって生まれた地域であり、既に賑わいがある。 行政機関との連携ができる。市民施設との交流、賑わいに貢献できる。 合同庁舎、マリオス、アイーナなど比較的公共施設が集積し、文化的な連携や災害時の空間確保など調整が期待される。 現状よりもやや離れるが、問題にはならない。 					<ul style="list-style-type: none"> ○ 現時点では行政機関である市役所との連携(効果)が他のエリアよりは施設上少ない。 周辺施設との連携は他エリアに比べるとやや見劣りする。 				
△	<ul style="list-style-type: none"> 立地条件は他のエリアより優れているが、現在の建物を取り壊し、新たに建築するには時間と金が多く必要と思われる。 					<ul style="list-style-type: none"> △ 内丸エリアとの比較では期待が低いですが、盛南エリアとの比較では期待が高いと考える。 					<ul style="list-style-type: none"> △ 再開発によって生まれた地域で、既に賑わいがある。周辺施設は行政的なものではなく、イベント的(美術館、先人記念館、アリーナ等)なもので連携効果は薄い。 物理的な連携、まちづくりの連携においては期待が薄い。 徒歩圏内の公共施設が限られ、独立した存在として整備、充実させる必要があるが、民間施設との連携が期待される。 長期的視点に立てば、連携は可能。 行政機能との連携を考えると弱い。 				

集約評価	「各委員の評価」集計結果			
	◎を3、○を2、△を1、×を0で数値化し、最大値に対する割合(以下「優位性」という。)が75%以上を◎、50%以上を○、25%以上を△、25%未満を×と表現する。			
	<p>◎ 35/39 優位性 89.7%</p>	<p>◎ 26/39 優位性 66.7%</p>	<p>◎ 18/39 優位性 46.2%</p>	
「各委員の評価」集計結果及び「各委員のコメント」を踏まえた評価				
<p>近隣の官公庁や公共施設との連携について評価がなされており、官公庁施設が多く集まる内丸エリアが最も高い評価であった。ただし、エリア全体の被災リスクなど留意すべき事項も存在する。盛岡駅西エリアは消防本部や一部の官公庁施設との連携が可能との評価であり、盛南エリアは民間事業者との連携に期待がある一方、周辺の公共施設の性格から連携効果の薄さを指摘する評価であった。</p>				

基本理念 「つながり 支えあい 市民とともに歩み続ける市庁舎」

基本方針 「行政サービス拠点」 「防災拠点」 「持続・変革拠点」 「交流・共創拠点」

評価区分	A まちづくりへの影響	評価項目	経済的効果	カラースケール凡例:	100%	75%	50%	25%	0%
評価視点	市庁舎整備による経済効果として「賑わい・活性化」を比較・評価。								
評価基準	◎…大いに期待できる ○…期待できる △…あまり期待できない ×…期待できない 評価は3つのエリアで必ず差をつける必要はなく、評価記号の重みは各委員の専門的知見等に基づく判断による。								

各委員における評価	内丸エリア					盛岡駅西エリア					盛南エリア				
	各委員の評価														
	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計
	7人	6人	0人	0人	13人	3人	7人	3人	0人	13人	1人	5人	4人	3人	13人
	各委員の主なコメント(一部要約)														
◎	<ul style="list-style-type: none"> 現在の中心市街地との連携が十分に期待できる。 プラスの経済効果以上に、移転によるマイナスの効果が想像しやすいことから優位に評価した。内丸プランなど他の計画、事業との相乗効果を生み出せばプラス効果も期待される。 現在の市庁舎が他エリアに移転した際、現存する経済効果の減少と賑わい、活性化への影響低下が推測される。 行政、商業、イベント、観光等、全てが歩いて回れ、地域内で様々なものが揃っている。他との違いを一番感じられる。 内丸エリアを外す理由が見つからない。 					<ul style="list-style-type: none"> 西口利用者の増加や公共交通のさらなる活用をはじめ、経済的メリットは大きい。 北東北のハブとして他市町村、他県との連携が期待できる。 移転した時点で人の流れは変化すると思う。県外、地域外からの人の動きが増加するだろう。 					◎ コメントなし				
○	<ul style="list-style-type: none"> これまでの歴史的な背景やまちづくり計画を活かしながらの活性化が期待できる。周辺組織との連携により更なる期待が出来る可能性がある。 現市庁舎の周辺と消費的協力関係ができています。 ある意味では内丸は「発展し尽されたエリア」とも言える。 将来計画(内丸プラン等)に沿った市庁舎建設が進むことでエリアにおける現状以上の経済的効果が期待される。 					<ul style="list-style-type: none"> 市外、県外からのアクセスの良さを活かした活性化が期待できる。 観光や市外とつながるビジネスの拠点となり得るが、これらの人の中心市街地への回遊は、盛岡駅周辺に限定される恐れがある(⇒中心市街地の実力、ポテンシャルからすると、回遊が限定されないとの意見あり)。 駅西またその周辺エリアに限定すれば効果が期待される。内丸エリアとの連携がうまく作りだせればよいと思う。 駅西口側に商業施設等の増加が期待できる。 					○ 現在の市街地からのアクセス性が弱く、中心拠点の二極化に伴う経済損失が懸念される(⇒二極化に伴う経済損失はそれほどないとの意見あり)。 市庁舎周辺に飲食業者は増えると思うが、交流人口の増加は限定的である。				
△											△ 郊外ショッピングモールの街並みに庁舎はそぐわない。 まち全体の賑わい、活性化の観点から効果を期待できるようにするには、新たなコンセプトでのまちづくりが必要である。 全く新しい発想、計画に向かうならば経済効果の期待も考えられるが、現状を考えると他エリアに比べ劣る。				
×						△ 既に賑わいはあり、市庁舎を整備した効果は薄い。 駅周辺だけの効果にならないか懸念される。					× ある意味においては「既に賑わっている」エリアであり、市役所移転に伴う活性化は限定的と言わざるを得ない。 現在の中心市街地から外すリスクが大きすぎる。 新市庁舎が、「陸の孤島」状態となる可能性がある。エリアの賑わい、活性化は果たして何年後に達成されるであろうか。				

集約評価	「各委員の評価」集計結果			
	◎を3、○を2、△を1、×を0で数値化し、最大値に対する割合(以下「優位性」という。)が75%以上を◎、50%以上を○、25%以上を△、25%未満を×と表現する。			
	◎ 33/39 優位性 84.6%	○ 26/39 優位性 66.7%	△ 17/39 優位性 43.6%	×
「各委員の評価」集計結果及び「各委員のコメント」を踏まえた評価				
庁舎移転に伴う経済的効果のプラス面やマイナス面について評価がなされており、これまでの背景や移転によるマイナス面から、現在と同じ内丸エリアが最も適合性が高いとの評価であった。盛岡駅西エリアは玄関口として新たなプラス面に期待できるとの評価であり、盛南エリアは庁舎周辺の賑わいは期待できるものの、移転によるメリットが限定的になるとの評価であった。				

基本理念 「つながり 支えあい 市民とともに歩み続ける市庁舎」

基本方針 「行政サービス拠点」 「防災拠点」 「持続・変革拠点」 「交流・共創拠点」

評価区分	B 市民利便性／交通アクセス	評価項目	公共交通・歩行者環境	カラースケール凡例：	100%	75%	50%	25%	0%
評価視点	公共交通カバー圏人口（バス停から半径300m圏内、鉄道駅から半径800m圏内）を算出し、市民の「利便性」を比較・評価する。歩行環境と併せて「回遊性」を比較・評価。								
評価基準	◎…大いに期待できる ○…期待できる △…あまり期待できない ×…期待できない 評価は3つのエリアで必ず差をつける必要はなく、評価記号の重みは各委員の専門的知見等に基づく判断による。								

各委員における評価	内丸エリア					盛岡駅西エリア					盛南エリア				
	各委員の評価														
	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計
	7人	4人	2人	0人	13人	7人	6人	0人	0人	13人	0人	4人	7人	2人	13人
	各委員の主なコメント(一部要約)														
◎	<ul style="list-style-type: none"> 交通体系は現状を踏まえると最も整っている。歩道幅員の難が指摘されるが、内丸プランをはじめ今後の都市整備においていずれ整備改善していく必要がある。 公共交通は問題無し。周辺には中小規模の魅力ある地元商店や観光施設もあり、回遊性がある（⇒回遊性にやや疑問との意見あり）。 公共交通の利便性の維持向上は回遊性にもつながり、歩道の改善を図ることで歩行者環境も適切に確保できる。 河川や幅員の狭い箇所があることでのデメリットもある。 					<ul style="list-style-type: none"> いずれの視点、ポイントでも高い利便性を持つ。 駅西側の整備が進み、人流が大きく変化すると思われる。特にIGRには効果あり。 交通体系は優位にあり、今後の強化の余地も多い。ただし駅東が主な路線バスの拠点となっており、駅西へは鉄道を跨ぐことになり、歩行者のことを考えると一概によいとも言えない。 内丸同様、盛岡駅を中心とした交通網をフリーライドに近い形で利用できるコスト面のメリットは大きい。 バスと歩行による利便性は高い。自転車専用道路を設けるスペースはなさそう。 					<ul style="list-style-type: none"> 地域全体が車社会を前提にしている感がある。県立美術館や先人記念館等の回遊性はあるが徒歩での移動には距離がある。 移転に伴い、新たなバス停ができる可能性が大きく、歩行者数も増加する。 				
○	<ul style="list-style-type: none"> バスによる利便性が高く、歩道が狭い又はない箇所があるが歩きやすい。自転車専用道路を設けるスペースがなさそう。 立地エリアによっては、歩行者環境にマイナスの可能性。 内丸プラン等の進捗により市庁舎周辺の歩行者環境は向上することが期待される。 					<ul style="list-style-type: none"> 多くのバスが盛岡駅東口に停車するため、西口からの移動には時間を要する。 公共交通、歩行者環境が確保されており、今後の公共交通の路線、本数の維持、向上にも貢献することが期待できる。 					<ul style="list-style-type: none"> 市庁舎へのアクセスを目的とした交通システムの再構築は避けられず、コスト面の不安が大きい。 公共交通が路線バスのみ。本数も少ない。 現在の社会情勢、事業者の姿勢を鑑みると利便性向上につながる可能性は少なくない。 バスによる利便性は他エリアよりもかなり低い。歩行はしやすそうだが、盛岡駅から歩く距離が遠い。自転車専用道路は他エリアよりも整備しやすそう。 現在の交通網を大きく変更していく必要がある。しかし現実的に近い将来での実現は難しいだろう。 				
△	<ul style="list-style-type: none"> 現況とあまり変化はない。 将来に向けていかに現状を維持するかが重要と考える。 					<ul style="list-style-type: none"> 県立図書館があり、回遊性がある（⇒交通機関は発着のみで、回遊性に乏しいとの意見あり）。 					<ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関のアクセス集中拠点を設けるには課題が多い。 車中心の交通環境になることに懸念がある。 				

集約評価	「各委員の評価」集計結果																				
	◎を3、○を2、△を1、×を0で数値化し、最大値に対する割合（以下「優位性」という。）が75%以上を◎、50%以上を○、25%以上を△、25%未満を×と表現する。																				
	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計						
	31/39	優位性 79.5%						33/39	優位性 84.6%						15/39	優位性 38.5%					
	「各委員の評価」集計結果及び「各委員のコメント」を踏まえた評価																				
	公共交通や歩行者環境の充実度を基に評価がなされており、盛岡駅を起点としたアクセス性から盛岡駅西エリアが最も適合性が高いとの評価であった。内丸エリアは既存の交通インフラの充実度や今後の都市整備への期待できるとの評価であり、盛南エリアは車中心の交通環境や新たな公共交通網の構築の課題があるとの評価であった。一方、エリア共通して将来的な公共交通機関の維持についての指摘がある。																				

基本理念 「つながり 支えあい 市民とともに歩み続ける市庁舎」

基本方針 「行政サービス拠点」 「防災拠点」 「持続・変革拠点」 「交流・共創拠点」

評価区分	B 市民利便性/交通アクセス	評価項目	自動車交通	カラースケール凡例:	100%	75%	50%	25%	0%
評価視点	現駐車台数、大規模開発関連交通計画マニュアル等を参考に、最大駐車台数を検討する。施設整備による交通量増加等の影響について「周辺道路の混雑状況等」により比較・評価。								
評価基準	◎…影響がない ○…影響が少ない △…影響が大きい ×…影響が非常に大きい 評価は3つのエリアで必ず差をつける必要はなく、評価記号の重みは各委員の専門的知見等に基づく判断による。								

各委員における評価	内丸エリア					盛岡駅西エリア					盛南エリア				
	各委員の評価														
	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計
	2人	10人	1人	0人	13人	3人	7人	3人	0人	13人	4人	5人	4人	0人	13人
	各委員の主なコメント(一部要約)														
◎	<ul style="list-style-type: none"> 朝、夕の混雑度は高い。現庁舎と同じエリアのため、混雑度の影響は少ない。周辺に時間貸し駐車場が複数あり、繁忙期にも対応可能。 あまり変化はない。 					<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の結節点であり、自動車に頼らずに来庁できる。 自動車分担率が低く、混雑悪化の影響は少ない。 混雑が少なく、自動車の分担率が低い。繁忙期でも、盛岡駅市西口地区駐車場や周辺民間駐車場の活用により対応可能。 					<ul style="list-style-type: none"> 自動車による来庁者は他エリアより増えてしまうが、混雑度は少なく、アクセス自体は簡便とも言える。 道路網ができていますので、便利になる。 自動車アクセス極めて良好。 				
○	<ul style="list-style-type: none"> 敷地内駐車場は附置義務台数を確保し、他は内丸エリアの共用駐車場を整備すればよい。 現状よりは悪化しないという「△に近い○」。 現庁舎と同じエリアのため、自動車交通の影響は少ない。 人口減、住民サービスの変革などにより、交通量、駐車スペースの必要量も減少する方向へ変化することが想定される。 自動車の混雑度は高いが、現在以上の混雑悪化の影響が少ないと推測される。自動車の分担率が低い。 駐車スペースという意味では潜在的に若干の影響がある。 計画に沿った道路改良、エリア全体の駐車場確保は不可欠。 					<ul style="list-style-type: none"> 駐車場整備の充実を図ることで、交通はスムーズになる。 近隣の道路状況は混雑のリスクもある一方で、内丸エリアよりも敷地内での必要十分な駐車台数確保に期待できる。 人口減、住民サービスの変革などにより、交通量、駐車スペースの必要量も減少する方向へ変化することが想定される。 大きな問題は想像しづらい。車の流れの変化によって、周辺の幹線道路への影響が予想され、検討が必要。 自動車利用者にとっては、利便性、アクセスは最適であるが、施設整備による交通増加時は危険を伴う可能性がある。 					<ul style="list-style-type: none"> 自動車のアクセスに優れている。混雑度は低いが、時間貸し駐車場が少なく、繁忙期の駐車場不足が懸念される。 駐車場への流れをスムーズにすればさほど問題はない。 人口減、住民サービスの変革などにより、交通量、駐車スペースの必要量も減少する方向へ変化することが想定される。 大きな問題は想像しづらい。現在以上に車の通行量は多くなることが予想され、交通網整備と共に、事故や道路維持、管理などにも目を向けることも必要。 				
△	<ul style="list-style-type: none"> 市役所近辺の混雑はデメリットが大きい。また、提携駐車場は多いが、駐車券の発行などコスト負担も無視できない。 					<ul style="list-style-type: none"> 新たに大きな自動車交通の需要を生み出す懸念がある。 市有地のみで庁舎整備すると、駐車場用地に不足が生じる。 東西方向の道路を十分確保しないと、渋滞の増加が懸念。 					<ul style="list-style-type: none"> 交通量としては「◎」だが、自動車分担率を高める政策を進めていいか疑問。 周辺に時間貸し駐車場がないため、繁忙期の駐車場不足が懸念され、駐車場規模に注意が必要。 				

集約評価	「各委員の評価」集計結果														
	◎を3、○を2、△を1、×を0で数値化し、最大値に対する割合（以下「優位性」という。）が75%以上を◎、50%以上を○、25%以上を△、25%未満を×と表現する。														
	◎	○	△	×	優位性	◎	○	△	×	優位性	◎	○	△	×	優位性
	27/39				69.2%	26/39				66.7%	26/39				66.7%
	「各委員の評価」集計結果及び「各委員のコメント」を踏まえた評価														
	自動車交通への影響について評価がなされており、3エリアとも大きく差のない評価であった。内丸エリアは現状と大きく変わらない点、盛岡駅西エリアは自動車分担率が低いことにより影響が小さい点、盛南エリアは既存の道路幅員等から混雑の影響が小さくなる点が評価されている。														

基本理念 「つながり 支えあい 市民とともに歩み続ける市庁舎」

基本方針 「行政サービス拠点」 「防災拠点」 「持続・変革拠点」 「交流・共創拠点」

評価区分	C 災害リスク／防災拠点性	評価項目	洪水・水害	カラースケール凡例：	100%	75%	50%	25%	0%
評価視点	候補エリアでの洪水・内水に対する水害の「リスク状況と、安全性の確保方策」も含め、比較・評価。								
評価基準	◎…リスクが低い ○…一定のリスクはあるが対応は可能 △…リスクが高く対応に一定の課題がある ×…リスクが非常に高い 評価は3つのエリアで必ず差をつける必要はなく、評価記号の重みは各委員の専門的知見等に基づく判断による。								

各委員における評価	内丸エリア					盛岡駅西エリア					盛南エリア				
	各委員の評価														
	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計
	7人	3人	3人	0人	13人	1人	5人	6人	1人	13人	6人	7人	0人	0人	13人
	各委員の主なコメント(一部要約)														
◎	<ul style="list-style-type: none"> エリア東部は洪水浸水想定区域のため、エリア中央部への建設が望ましい。地盤レベルを上げるなどの対応で安全性確保。 地盤のレベルアップで対応可能。 リスクの低い場所を選ぶことが可能。 リスクのある場合もあるが、対応は可能。安全性は確保しやすい。 浸水エリアにかかる場合は低層階の用途に工夫が必要。 					<ul style="list-style-type: none"> ◎ 地盤のレベルアップで対応可能。 ○ 他エリアに比べて浸水想定課題があるが、技術的な方法で対応可能。 エリアの大半が浸水区域であり、洪水浸水対策には相当の配慮が必要。 浸水対策が必要であるが、対応は可能。 建物の造り方によっては対策が可能。 					<ul style="list-style-type: none"> ◎ 水害の観点で考えれば他エリアよりも低リスクであることは明らか。大型商業施設との連携等で来庁者の一時避難や安全確保の可能性が見込まれる。 ◎ 浸水エリア外であり、安心感がある。 ◎ リスクの低い場所を選ぶことが可能である。 ◎ 立地条件として最適と思う。 ◎ 水害リスクは最も低いと考える。 地盤のレベルアップで対応可能。 				
○	<ul style="list-style-type: none"> エリア内には浸水想定区域が含まれるが、1階をピロティ化するなどにより対応可能。2階への徒歩アクセスを簡便化させる工夫が必要となり、コストも見込まれる。 ○ 大きな問題は感じられない。場所決定後の状況で技術的対応の検討が必要になるかもしれない。 ○ 外水による水害リスクへの対応は、水害リスクを想定した建物とすることで対応は可能と考える。 					<ul style="list-style-type: none"> △ 浸水想定区域内への立地は避けられないが、対策は可能。 △ 既存の陸橋等との接続によって、内丸エリアよりは低コスト低工程での、2階以上への窓口設置が期待できる。 △ 浸水想定が厳しい。市庁舎の浸水対策だけでなく、アクセスのための周辺道路を含めた対策をどこまでできるかが重要。 △ 外水、内水による水害リスクへの対応は、水害リスクを想定した建物とすることで対応は可能と考える。 浸水想定を基にした庁舎計画（特に電気、通信）が必要。 					<ul style="list-style-type: none"> ○ 内水浸水が未調査のため、不確定要素である。 ○ 他エリアよりも安全性を確保しやすいそう。 ○ 大きな問題は感じられない。技術的方法で対応可能。 ○ 水害リスクへの対策経費は他エリアに比べて安価に収まることが期待される。 ○ リスクも想定内にあるが、地盤レベルを上げる等で対応は可能。 ○ 建物の造り方によっては対策が可能。 				
△	<ul style="list-style-type: none"> △ 河川から距離があり、標高のある用地確保が重要。 △ 洪水、水害には弱い。 					<ul style="list-style-type: none"> × 低地形内かつ雫石川と北上川の間位置し、リスクが高い。 									

集約評価	「各委員の評価」集計結果			
	◎を3、○を2、△を1、×を0で数値化し、最大値に対する割合（以下「優位性」という。）が75%以上を◎、50%以上を○、25%以上を△、25%未満を×と表現する。			
	<p>30/39 優位性 76.9%</p>	<p>19/39 優位性 48.7%</p>	<p>32/39 優位性 82.1%</p>	
「各委員の評価」集計結果及び「各委員のコメント」を踏まえた評価				
洪水・水害リスクとその対応について評価がなされており、浸水想定区域外の盛南エリアが最も適合性が高いとの評価であった。内丸エリアはリスクの低い場所を選定することで対応可能であるとの評価であり、盛岡駅西エリアは大半が浸水想定区域であることの懸念があるとの評価であった。一方どのエリアであっても、技術的な方法でリスク対応可能とのコメントがあった。				

基本理念 「つながり 支えあい 市民とともに歩み続ける市庁舎」

基本方針 「行政サービス拠点」 「防災拠点」 「持続・変革拠点」 「交流・共創拠点」

評価区分	C 災害リスク／防災拠点性	評価項目	地震・液状化・火山噴火	カラースケール凡例：	100%	75%	50%	25%	0%
評価視点	候補エリアでの地震・火山噴火に対する「リスク状況と、安全性の確保方策」も含め、比較・評価。								
評価基準	◎…リスクがない ○…リスクが低い △…リスクが高い ×…リスクが非常に大きい 評価は3つのエリアで必ず差をつける必要はなく、評価記号の重みは各委員の専門的知見等に基づく判断による。								

各委員における評価	内丸エリア					盛岡駅西エリア					盛南エリア				
	各委員の評価														
	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計
	3人	9人	1人	0人	13人	4人	6人	2人	1人	13人	4人	8人	1人	0人	13人
各委員の主なコメント(一部要約)															
◎	<ul style="list-style-type: none"> ・安全性は高い。 ・安全性は高い。 ・火山、液状化はほぼリスクは無い。一方で地震は近傍に狭隘道路や河川橋梁、建物が古いし街区を擁しており、職員参集の妨げになる可能性がある。 ・事前の調査、工事で安全性の確保が可能。 ・築年数の古い建物がある地域なので、地震により隣接建物が倒れてくる可能性はゼロではない。 ・リスクは考えられるが、安全性の確保は適切に行えると考えられる。 ・3エリアとも同程度のリスク。 ・他エリアと比較して大きな問題はないように思う。 ・地震における周辺の老朽建物等の倒壊により交通障害発生の可能性はある。 					<ul style="list-style-type: none"> ・安全性は高い。 ◎ ・火山、液状化はほぼリスクは無い。一方で地震については幅員が広い道路・高規格道路もあり周辺建物も新しく、周辺の安全環境は保たれやすい。 					<ul style="list-style-type: none"> ・安全性は高い。 ◎ ・火山、液状化はほぼリスクは無い。一方で地震については幅員が広い道路・高規格道路もあり周辺建物も新しく、周辺の安全環境は保たれやすい 				
○	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の調査、工事で安全性の確保が可能。 ・築年数の古い建物がある地域なので、地震により隣接建物が倒れてくる可能性はゼロではない。 ・リスクは考えられるが、安全性の確保は適切に行えると考えられる。 ・3エリアとも同程度のリスク。 ・他エリアと比較して大きな問題はないように思う。 ・地震における周辺の老朽建物等の倒壊により交通障害発生の可能性はある。 					<ul style="list-style-type: none"> ・安全性は高い。 ○ ・建物同士が近接していて、周囲に何も無い平地が少ないため、避難の際は建物内部になることを想定して計画する必要がある。 ・事前の調査、工事で安全性の確保が可能。 ・3エリアとも同程度のリスク。 ・他エリアと比較して大きな問題はないように思う。 					<ul style="list-style-type: none"> ・安全性は高い。 ○ ・元々農地だったところが多いと思われる。地盤改良、対策を慎重に進める必要がある。 ・事前の調査、工事で安全性の確保が可能。 ・平坦地のため安全性は高い。 ・3エリアとも同程度のリスク。 ・他エリアと比較して大きな問題はないように思う。 				
△	<ul style="list-style-type: none"> △ ・地震における周辺の老朽建物等の倒壊により交通障害発生の可能性はある。 					<ul style="list-style-type: none"> △ ・市庁舎周辺施設等の損傷によるリスクは否定できない。 					<ul style="list-style-type: none"> △ ・地震における周辺の橋梁や道路の損傷により交通障害の発生する可能性がある。 				
×						<ul style="list-style-type: none"> × ・地震、液状化等、他エリアよりリスクが高い。 									

集約評価	「各委員の評価」集計結果														
	◎を3、○を2、△を1、×を0で数値化し、最大値に対する割合（以下「優位性」という。）が75%以上を◎、50%以上を○、25%以上を△、25%未満を×と表現する。														
	◎	○	△	×	優位性	◎	○	△	×	優位性	◎	○	△	×	優位性
	28/39				71.8%	26/39				66.7%	29/39				74.4%
「各委員の評価」集計結果及び「各委員のコメント」を踏まえた評価															
地震・液状化・火山噴火のリスクについて評価がなされており、3エリアとも大きく差のない評価であった。内丸エリアについては築年数の古い建物が多い点、盛岡駅西エリアは高層の建物が近接している点、盛南エリアは地盤改良を想定する点について考慮が必要との評価であった。															

基本理念 「つながり 支えあい 市民とともに歩み続ける市庁舎」

基本方針 「行政サービス拠点」「防災拠点」「持続・変革拠点」「交流・共創拠点」

評価区分	C 災害リスク/防災拠点性	評価項目	災害対応・防災拠点	カラースケール凡例:	100%	75%	50%	25%	0%
評価視点	防災拠点として業務維持を可能にする機能について、災害時の「項目、必要レベル」について比較・評価。								
評価基準	◎…最も適している ○…適している △…あまり適さない ×…適さない 評価は3つのエリアで必ず差をつける必要はなく、評価記号の重みは各委員の専門的知見等に基づく判断による。								

各委員における評価	内丸エリア					盛岡駅西エリア					盛南エリア				
	各委員の評価														
	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計
	9人	3人	1人	0人	13人	2人	8人	2人	1人	13人	3人	8人	2人	0人	13人
	各委員の主なコメント(一部要約)														
◎	<ul style="list-style-type: none"> 近隣施設との連携、東日本大震災の経験から優位。 県庁や電力会社、通信会社などインフラ関連会社との地理的連携に期待できる。官公庁街として復旧の優先度も高く災害対応拠点としての利便性は大きい。 県庁（県庁舎）との連携、役割分担を設計段階で考慮できれば、市民生活支援に有益。 県や警察、病院との連携が取りやすい。エリア内に集会場（県民会館）があり、避難所としての利用が可能ではないか。 官公庁やインフラ企業との連携が容易で、これまでの経験値と計画の活用が最も活かせる。 					<ul style="list-style-type: none"> 消防署が近く、初動対応においては高レベルの連携が可能。一時収容可能な高層ビル群が築浅で、耐震化、自家発電の用意があるため、連携協定等により有効活用が期待できる。 県庁から離れており、行政機能の同時ダウンリスクが減る。 					<ul style="list-style-type: none"> 緊急時（洪水等）に防災担当者が集まりやすい場所である。 県庁から離れており、行政機能の同時ダウンリスクが減る。 拠点としての位置は、他エリアより適切である。 				
○	<ul style="list-style-type: none"> 県庁等既存の官公庁施設との連携が期待できるが、周辺住民の避難場所や物資配給場所等の誤解を招かないよう既存の分庁舎、近隣の施設、避難場所を十分に確保しておくことが、市庁舎における災害対応拠点機能を発揮するためには重要。 3エリアとも同程度。 					<ul style="list-style-type: none"> 消防本部に近く、県庁ともさほど離れないので良い。洪水は事前に予想できるので、職員の参集は可能。 新たな災害対応計画を適切に運用すれば対応拠点となる。 浸水想定等を基にした庁舎設計は重要。近年増加している駅周辺の高層住宅住民への避難所等を別途検討、計画が必要。 防災や災害対応拠点として適しているが、混雑が予想される。二次災害が懸念される。 3エリアとも同程度。 					<ul style="list-style-type: none"> 今後の都市整備、周辺環境の施設整備により拠点として優位なエリアになる可能性がある。 新たな災害対応計画を適切に運用すれば対応拠点となる。 運動施設への避難、医療施設との被災者対応での連携により防災拠点として強化できる。 他機関との連携をどのように行うか事前の計画立案、訓練が実施されれば、防災拠点は機能すると考えられる。 エリア内には市立病院があり、災害時に連携が取りやすい。 3エリアとも同程度。 				
△	<ul style="list-style-type: none"> 洪水浸水想定区域に庁舎を建てるには費用がかかりすぎる。 					<ul style="list-style-type: none"> 場所的に機動的に動けない可能性がありそう。このエリアに庁舎がなくても、市民施設、消防署などとの連携ができる。 エリア全体が洪水、浸水した際の職員参集に検討が必要。 					<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との連携に難あり。 他のエリアと比べて宿泊施設が足りず、非常態勢時の職員の寝泊まりに課題がある。一方で大型商業施設の物流・ストックを活用できる仕組みを構築しやすいメリットも考えられる。 				
×	コメントなし					コメントなし					コメントなし				

集約評価	「各委員の評価」集計結果														
	◎を3、○を2、△を1、×を0で数値化し、最大値に対する割合（以下「優位性」という。）が75%以上を◎、50%以上を○、25%以上を△、25%未満を×と表現する。														
	◎	○	△	×	優位性	◎	○	△	×	優位性	◎	○	△	×	優位性
	34/39				87.2%	24/39				61.5%	27/39				69.2%
	「各委員の評価」集計結果及び「各委員のコメント」を踏まえた評価														
	災害対応や防災拠点としての適合性について評価がなされており、近隣の官公庁や医療機関、東日本大震災の経験等から内丸エリアが最も適合性が高いとの評価であった。盛岡駅西エリアは消防本部との連携や県庁と離れることによるリスク回避について評価されており、盛南エリアは市立病院や運動施設との連携について評価されている。														

基本理念 「つながり 支えあい 市民とともに歩み続ける市庁舎」

基本方針 「行政サービス拠点」 「防災拠点」 「持続・変革拠点」 「交流・共創拠点」

評価区分	D 敷地配置/動線	評価項目	供用開始までの期間	カラースケール凡例:	100%	75%	50%	25%	0%
評価視点	候補エリアごとに「取得の見込まれる時期」について比較・評価。								
評価基準	◎…最も適している ○…適している △…あまり適さない ×…適さない 評価は3つのエリアで必ず差をつける必要はなく、評価記号の重みは各委員の専門的知見等に基づく判断による。								

各委員における評価	内丸エリア					盛岡駅西エリア					盛南エリア				
	各委員の評価														
	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計
	0人	10人	2人	1人	13人	5人	6人	2人	0人	13人	0人	10人	2人	1人	13人
	各委員の主なコメント(一部要約)														
○	<ul style="list-style-type: none"> 官公庁敷地との取得交渉の可能性が高いが、新しい行政庁間の連携を模索できる機会も考えられる。 土地の取得時期は2番目の見込み。 内丸プランをどのように策定するかにもよるが、都市計画「一団地の官公庁施設」の見直し期間が現時点で見通せない。 他施設との連携を早めに進めた方が良い。設計、建設は最新技術で早く進む。 土地の取得には、相当の時間を要すると思われる。 将来計画(内丸プラン)を確実に進め、連動させて着工、供用させていくことが大切。 何とも言いづらい。 3エリアとも長期間想定という点で差別化できない。 適否を評価するための情報が現時点では十分でない。 					<ul style="list-style-type: none"> 他エリアと比べ、やや優位。 用地取得の交渉期間を考慮する必要性が低いので、相対的に供用開始の予測は比較的容易と思われる。 土地は既にあるので、次の段階に進むことができる。結果、供用開始が一番早い。 スケジュールが立てやすい。 地権者との用地交渉が発生しない(既存の市有地を活用できる)点は供用開始までの期間を想定しやすい。 					<ul style="list-style-type: none"> 既に開発が進んでおり、取得交渉の期間を考慮しなければならぬ可能性は高い。 土地の所有者次第とはいえ、ある程度の選択肢があり、内丸エリアより期間の優位性がある。 最適地までの交渉が難しい(面積、地代)。 用地確保までの期間の想定は難しい。 何とも言いづらい。 3エリアとも長期間想定という点で差別化できない。 適否を評価するための情報が現時点では十分でない。 早期に用地の地権者との交渉、まとまるかが大きく影響。 				
△	<ul style="list-style-type: none"> 交渉に時間を要すると思う。 想定が難しいため比較はできない、という意味での評価。 					<ul style="list-style-type: none"> 土地の所有者次第とはいえ、ある程度の選択肢があり、内丸エリアより期間の優位性がある。 市有地(駐車場)を活用の場合、既存の駐車場機能の確保を並行して進める必要がある。 適否を評価するための情報が現時点では十分でない。 3エリアとも長期間想定という点で差別化できない。 					<ul style="list-style-type: none"> 土地の取得時期は3番目の見込み。 想定が難しいため比較はできない、という意味での評価。 				
×	コメントなし					<ul style="list-style-type: none"> 想定が難しいため比較はできない、という意味での評価。 設計等はAI活用で早期にできるが、実現までに時間が必要。 					コメントなし				

集約評価	「各委員の評価」集計結果														
	◎を3、○を2、△を1、×を0で数値化し、最大値に対する割合(以下「優位性」という。)が75%以上を◎、50%以上を○、25%以上を△、25%未満を×と表現する。														
	内丸	盛岡駅西	盛南	優位性											
	22/39	29/39	22/39	56.4%	74.4%	56.4%									
	「各委員の評価」集計結果及び「各委員のコメント」を踏まえた評価														
	評価項目「用地取得可能性」(前頁)と同じく、用地取得の難易度を基準に評価がなされており、市有地(駐車場)がある盛岡駅西エリアが最も適合性が高いとの評価であった。内丸エリア及び盛南エリアは用地交渉に時間を要するとの評価であった。														

基本理念 「つながり 支えあい 市民とともに歩み続ける市庁舎」

基本方針 「行政サービス拠点」「防災拠点」「持続・変革拠点」「交流・共創拠点」

評価区分	D 敷地配置／動線	評価項目	敷地配置	カラースケール凡例：	100%	75%	50%	25%	0%
評価視点	敷地の有効活用や建物配置、高さ配置、高さについては景観との兼ね合いも考慮して比較。								
評価基準	◎…最も適している ○…適している △…あまり適さない ×…適さない 評価は3つのエリアで必ず差をつける必要はなく、評価記号の重みは各委員の専門的知見等に基づく判断による。								

各委員における評価	内丸エリア					盛岡駅西エリア					盛南エリア				
	各委員の評価														
	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計
	4人	5人	4人	0人	13人	3人	9人	1人	0人	13人	1人	7人	5人	0人	13人
	各委員の主なコメント(一部要約)														
◎	<ul style="list-style-type: none"> 地域としての魅力が高く、新たな盛岡の象徴的建築物として活用幅の広さがある。庁舎がある光景を見慣れており、相応の高さの場合でも景観上の違和感も少ないのではないかと。 内丸分庁舎はエリア内にあり、既存のまま利用すべき。 まちづくりの基本理念に近いエリア。 					<ul style="list-style-type: none"> 最も優位。駐車場の計画、設計を良いものにすれば、課題（駐車場）も逆に特徴の一つにもなり得る。 敷地ははっきりしているため、防災と駐車場の確保に留意しながら、できるだけ床面積を確保できる建物にする。 					<ul style="list-style-type: none"> ◎ 大型施設の開発が進んでおり、高さについては比較的融通を利かせやすい。景観上の兼ね合いも大きな課題は考えにくい。 ○ 計画、設計の中で各種課題は乗り越えられると思われるが、他施設との計画、デザイン上での連続性が見出しづらそう。 				
○	<ul style="list-style-type: none"> 土地の広さなど各制限が生じるが、この制限を乗り越える（上手く使う）ことでより良いものへと向かうこともある。 「一団地の官公庁施設」の見直しを行ない、市庁舎のみならず、内丸エリアの他の建物の更新もしやすくなる。 景観へ十分に考慮した市庁舎が建設できるのであれば、敷地面における制約は少ないと考えられる。 課題は乗り越えられるテクニカルな問題と認識しています。 適否を評価するための情報が現時点では十分でない。 					<ul style="list-style-type: none"> 取得価格と取得難易度、景観、建物の高さ制限の観点から他エリアよりも課題が少ない。 高層化が容易だが、一方で岩手山をはじめとした景観上の兼ね合いにおいては考慮しなければならない要素もある。 既存の駐車場機能を確保するとなれば、立体駐車場が大きくなり、敷地の多くを占有することになる。 駐車場はビルの低層階に一体型で整備し、建物の全体の高さをアップする。 市庁舎の高さに関する制約は少ないので敷地の大きさに左右される可能性は低いと考えられる。 適否を評価するための情報が現時点では十分でない。 					<ul style="list-style-type: none"> ○ 環境アセスメントのクリアが可能かどうか。 取得する面積（8,000㎡）によっては、盛岡南新都市地区計画の高さ制限に抵触する可能性がある。 適否を評価するための情報が現時点では十分でない。 				
△	<ul style="list-style-type: none"> 最も制約が大きいと感じる。 交渉可能な土地が限定されるので、床面積が十分確保できないのでは。 					<ul style="list-style-type: none"> △ 既存の駐車場の問題をどのように処理するのか気になる。 					<ul style="list-style-type: none"> △ このエリアに持ってきた際に、8,000㎡程度に規模を縮小するのであれば、現在のエリアから移転する必要はないのでは。 面積、地代に縛られるだろうが、最適な建設を目指す。 民間地権者との交渉は困難で時間がかかる。 エリア自体に景観への考慮がほとんど議論されていないので、どのような市庁舎でも建設できる（建設コストが優先される）可能性がある。基本的に民有地の購入なので価格が大きく左右される可能性は否めない。 				

集約評価	「各委員の評価」集計結果																	
	◎を3、○を2、△を1、×を0で数値化し、最大値に対する割合（以下「優位性」という。）が75%以上を◎、50%以上を○、25%以上を△、25%未満を×と表現する。																	
	○	優位性 66.7%	◎	○	△	×	○	優位性 71.8%	◎	○	△	×	○	優位性 56.4%	◎	○	△	×
	26/39					28/39							22/39					
	「各委員の評価」集計結果及び「各委員のコメント」を踏まえた評価																	
	建設時の制約を基準に評価がなされており、3エリアとも大きく差のない評価であった。内丸エリアは制約は大きいものの、地域の特徴を活かすことができるとの評価、盛岡駅西エリアは駐車場などが課題となるが、課題が少なく解決できるとの評価、盛南エリアは他施設との計画、デザイン上での連続性を見出しづらいものの、景観上大きな課題はないとの評価であった。																	

基本理念 「つながり 支えあい 市民とともに歩み続ける市庁舎」

基本方針 「行政サービス拠点」 「防災拠点」 「持続・変革拠点」 「交流・共創拠点」

評価区分	D 敷地配置／動線	評価項目	駐車場配置・動線計画	カラースケール凡例：	100%	75%	50%	25%	0%
評価視点	候補エリアにおける「駐車場配置・方策」を検討する。（平面駐車場・立体駐車場）周辺交通に配慮した車両動線等を比較・評価。								
評価基準	◎…最も適している ○…適している △…あまり適さない ×…適さない 評価は3つのエリアで必ず差をつける必要はなく、評価記号の重みは各委員の専門的知見等に基づく判断による。								

各委員における評価	内丸エリア					盛岡駅西エリア					盛南エリア				
	各委員の評価														
	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計
	2人	9人	2人	0人	13人	1人	8人	4人	0人	13人	1人	6人	6人	0人	13人
	各委員の主なコメント(一部要約)														
◎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公用車は現在の愛宕町車庫を利用することができるのは大きなメリット。 ・ 来庁者用駐車場を必要台数確保するも、周辺には多くの民間駐車場があるので配慮を。歩行者動線にも配慮を。 					◎					◎				
○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の駐車場需要を見通すことは困難であり、控えめに見積もり、あとから「買い足し」「借り足し」でもよいのでは。 ・ 現在の収容台数を確保するためには、オンライン化など窓口業務の効率化が必須。 ・ 建設時期を見据えたとき、123～145台の確保が必要か疑問。 ・ 車両動線については工夫の余地がある。 ・ 既存の公用車駐車スペースを存続、活用できる点は他のエリアに比べて有利。来庁者用の駐車場は、内丸プラン等と連動して確保することが必要。 ・ 用地の具体的な位置と確保面積によって評価が変わる。 					○					○				
△	<ul style="list-style-type: none"> ・ 庁舎敷地内にできるだけ駐車場は欲しいが、現状を維持するくらいで、民間駐車場を活用するしかない。 					△					△				

集約評価	「各委員の評価」集計結果														
	◎を3、○を2、△を1、×を0で数値化し、最大値に対する割合（以下「優位性」という。）が75%以上を◎、50%以上を○、25%以上を△、25%未満を×と表現する。														
	内丸	盛岡駅西	盛南	優位性											
	26/39	23/39	21/39	66.7%	59.0%	53.8%									
	「各委員の評価」集計結果及び「各委員のコメント」を踏まえた評価														
	駐車場配置の制約を基準に評価がなされており、3エリアとも大きく差のない評価であったが、デジタル化推進など今後の業務の形が変わってくる（来庁者も少なく＝駐車台数も少なくなる）ことが予想され、将来の駐車場を見通すことは困難であるとの意見であった。その中でも内丸エリアは、現段階で与えられた環境・諸条件をうまく使えるという点で、他のエリアより優位な評価であった。														

基本理念 「つながり 支えあい 市民とともに歩み続ける市庁舎」

基本方針 「行政サービス拠点」 「防災拠点」 「持続・変革拠点」 「交流・共創拠点」

評価区分	E 事業への影響	評価項目	事業費	カラスケール凡例:	100%	75%	50%	25%	0%
評価視点	候補エリアによる「事業費の差」を比較・評価。								
評価基準	◎…最も適している ○…適している △…あまり適さない ×…適さない 評価は3つのエリアで必ず差をつける必要はなく、評価記号の重みは各委員の専門的知見等に基づく判断による。								

各委員における評価	内丸エリア					盛岡駅西エリア					盛南エリア				
	各委員の評価														
	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計
	2人	8人	3人	0人	13人	2人	9人	2人	0人	13人	1人	8人	4人	0人	13人
	各委員の主なコメント(一部要約)														
◎	<ul style="list-style-type: none"> 総事業費はエリアの違いで大きな差が無いように感じるので、土地代が高いエリアのため、その分優位。 まちづくりに大きく影響する事業であり、コンパクト+ネットワークの都市構造に向け相応の事業費と見る。 					<ul style="list-style-type: none"> 用地取得の費用が軽減されるメリットは大きく、建築費が高騰している今日にあっては相対的に重要な要素である。一方で工事中にあっては現駐車場の代替的措置などの検討が必要。 市有地活用により建物に予算を回し、機能の集中を図る。 					<ul style="list-style-type: none"> 用地取得の必要性はあるが、比較的地価は安価であり工事中も現庁舎を利用可能など費用面のメリットは大きい。 				
○	<ul style="list-style-type: none"> エリアの違いによる、建物の建設費の差はあまり無いと考える。敷地確保にかかる費用の差が大きい。 民間事業者との合築や、県や国との施設共用化などにより、市の負担を軽減する方策を講じるべき。 判断材料が乏しく同じ評価にしている。 3エリアとも諸条件があり、比較しにくい。 適否を評価するための情報が現時点では十分でない。 内丸分庁舎、愛宕町分庁舎はそのまま活用し事業費を削減。 					<ul style="list-style-type: none"> 総事業費はエリアの違いで大きな差が無いように感じ、浸水区域対応の事業費が加算される分、若干のマイナス印象。 エリアの違いによる、建物の建設費の差はあまり無いと考える。敷地確保にかかる費用の差が大きい。 民間事業者との合築や、県や国との施設共用化などにより、市の負担を軽減する方策を講じるべき。 判断材料が乏しく同じ評価にしている。 3エリアとも諸条件があり、比較しにくい。 適否を評価するための情報が現時点では十分でない。 					<ul style="list-style-type: none"> 総事業費はエリアの違いで大きな差が無いように感じる。 エリアの違いによる、建物の建設費の差はあまり無いと考える。敷地確保にかかる費用の差が大きい。 民間事業者との合築や、県や国との施設共用化などにより、市の負担を軽減する方策を講じるべき。 判断材料が乏しく同じ評価にしている。 3エリアとも諸条件があり、比較しにくい。 適否を評価するための情報が現時点では十分でない。 来訪者の自動車利用が多く、より多くの駐車場機能の整備が必要となる。 				
△	<ul style="list-style-type: none"> 土地代の他に既存建物の移転補償等で費用が増加してくる。 現敷地を使用する場合にあっては仮庁舎の検討などの経費が見込まれる。観光客を含め人流の多いエリアであり、工事にあっては相応の安全対策コストが必要となる可能性が高い。 					<ul style="list-style-type: none"> 他エリアよりも浸水対策の強化、事業費の算定に詳細な地盤調査、線路周辺の近接工事による対応経費、現在の盛岡駅西口地区駐車場の機能確保と民間駐車場の活用で検討が必要。 					<ul style="list-style-type: none"> 総事業費は、移転補償費がない分、内丸よりは良い。 駐車場確保のため時間と費用が他エリアよりかかる。 				

集約評価	「各委員の評価」集計結果														
	◎を3、○を2、△を1、×を0で数値化し、最大値に対する割合(以下「優位性」という。)が75%以上を◎、50%以上を○、25%以上を△、25%未満を×と表現する。														
	◎	○	△	×	優位性	◎	○	△	×	優位性	◎	○	△	×	優位性
	25/39				64.1%	26/39				66.7%	23/39				59.0%
	「各委員の評価」集計結果及び「各委員のコメント」を踏まえた評価														
	現時点で整理された情報に基づくと、総事業費はどのエリアでも大きな差はないとの考えと、土地代や移転補償などによって変わるとの考えで評価がなされており、結果として3エリアとも大きく差のない評価であった。														

基本理念 「つながり 支えあい 市民とともに歩み続ける市庁舎」

基本方針 「行政サービス拠点」 「防災拠点」 「持続・変革拠点」 「交流・共創拠点」

評価区分	E 事業への影響	評価項目	その他	カラースケール凡例:	100%	75%	50%	25%	0%
評価視点	課題等が与える影響について比較・評価。								
評価基準	◎…影響がない ○…影響が少ない △…影響が大きい ×…影響が非常に大きい 評価は3つのエリアで必ず差をつける必要はなく、評価記号の重みは各委員の専門的知見等に基づく判断による。								

各委員における評価	内丸エリア					盛岡駅西エリア					盛南エリア				
	各委員の評価														
	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計	◎	○	△	×	合計
	1人	7人	4人	1人	13人	0人	9人	4人	0人	13人	1人	8人	4人	0人	13人
	各委員の主なコメント(一部要約)														
◎	<ul style="list-style-type: none"> 藩政時代から行政の中核機能が「内丸」にあったことは、歴史性が重視される盛岡の都市において重い意義を持つ。それが変わることによってマイナス面の影響の方が大きく想像される。 					<ul style="list-style-type: none"> 駅西エリアに行政機能を持つことは、新都市軸を築く現在の政策、計画をより強く進めることに効果がある。ただしその際も、既存中心市街地の状況を常に意識しなければならない。 					<ul style="list-style-type: none"> 他エリアに比べると比較的大規模工事は容易と考えるが、一方で渋滞対策や周辺施設への説明、調整が求められる。 				
○	<ul style="list-style-type: none"> これまでのまちづくりの資産を変更することなく継続的に最も活用できるため、上位計画への影響が比較的少ない。 通常の施工計画でカバー可能と考える。 上位計画は、これまでのまちづくりの資産を継続的に活用できるため、整備や管理の影響が比較的少ないと考える。 工事用車両動線の整理、周辺交通の渋滞への影響、近隣建物への配慮が必要。 					<ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関の利用促進を図る上でも、駅隣接は望ましい。 工事用車両動線の整理、周辺交通の渋滞への影響、近隣建物への配慮が必要。 現庁舎を使用しながらの建設であれば来庁者への対策は不要。駅周辺部でありやはり工事の安全対策、混雑対策は必要。 駅前地区で周辺の建物、交通渋滞が大きな課題。 まちづくり(盛岡らしさ)等を考慮しなければ、市有地に建設できる点から期間内完成の可能性は高い。 					<ul style="list-style-type: none"> 盛南エリアに行政機能を持つことは、新都市軸を築く現在の政策、計画上でも期待される。一方、既存中心市街地が衰退すると、盛岡という都市のアイデンティティが喪失しかねない。 通常の施工計画でカバー可能と考える。 「都南村との合併協定書」を念頭に置き、市庁舎の分割と盛岡市役所関連施設(例 ゴミ処理施設)の隣接などの検討。 工事用車両で幹線道路まで渋滞が懸念される。 				
△	<ul style="list-style-type: none"> 用地交渉に長くかかると、現庁舎のメンテナンスなどの費用が膨らんでくるので、期限をはっきりさせる必要がある。 現敷地を使用する場合は、仮庁舎への誘導対策が必要。 3エリアともトータルでは同じような影響があると思料。 					<ul style="list-style-type: none"> 線路周辺の近接工事、そして建物規模が大きいいため、特段の注意が必要。 まちづくり計画や、市庁舎という拠点の移動にともなう変化の対応による影響があると想定される。 					<ul style="list-style-type: none"> 市北部の地域活性化にも力を入れなければならない。 人口減少化社会が進捗する過程で市庁舎建設の影響を十分に検討し、市全体に関する大胆な計画立案、実施を行わなければ、中心市街地の停滞、衰退への加担などを問われかねない。 まちづくり計画や、市庁舎という拠点の移動にともなう変化の対応による影響があると想定される。 				
×	<ul style="list-style-type: none"> エリアの将来計画(内丸プラン等)が具体的に進捗しないと市庁舎建設は具体化しないリスクが高い。 					<ul style="list-style-type: none"> 3エリアともトータルでは同じような影響があると思料。 					<ul style="list-style-type: none"> 3エリアともトータルでは同じような影響があると思料。 				

集約評価	「各委員の評価」集計結果														
	◎を3、○を2、△を1、×を0で数値化し、最大値に対する割合(以下「優位性」という。)が75%以上を◎、50%以上を○、25%以上を△、25%未満を×と表現する。														
	◎	○	△	×	優位性	◎	○	△	×	優位性	◎	○	△	×	優位性
	21/39				53.8%	22/39				56.4%	23/39				59.0%
	「各委員の評価」集計結果及び「各委員のコメント」を踏まえた評価														
	これまでの歴史や今後のまちづくりについての考えや、工事を進めるうえでの留意事項などを基に評価がなされており、3エリアとも大きく差のない評価であった。なお、上記コメント以外に、庁舎整備、維持管理における省エネルギー化や再生エネルギーの活用や、地元産材の活用による市内の産業活用や地域経済支援についての指摘もあった。														